



Closure report 2024

終了報告書

エチオピア連邦民主共和国
デラ地域開発プログラム
ETH-181725 (2005年～2024年)



ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

安全な水を
入手できる世帯

2007年

2024年



17%

83.4%

年間を通して十分な食料を
得られている世帯

2012年

2024年



52.4%

92.8%

「地域は子どもたちにとって
安全だ」と答える保護者

2012年

2024年



59.3%

95.3%

Education



教育

学習環境の改善と
教育の重要性を周知し、
進級率の向上へ

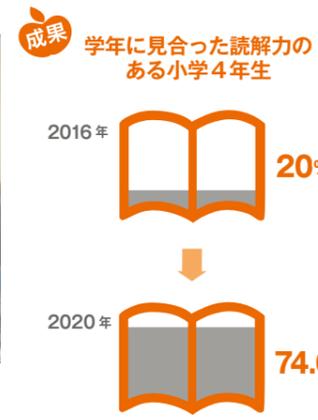
地域には学校が少ないうえに、校舎や学校設備は老朽化が進んでいて、安全に学習できる環境とは言い難い状況でした。一方家庭では、生活が苦しく学用品を買ってもらえない子や、家の仕事の手伝いをするため学校を長期間休んだ結果、進級できなかったり退学したりしてしまう子どももいました。そこでワールド・ビジョンは17棟の新しい校舎を建設し、学習机や備品を提供して学習環境を改善したほか、地方行政や地域リーダーを通して保護者に教育の重要性を継続的に訴えました。また教師やボランティアスタッフを対象に様々な研修を行い、読書キャンプの実施など子どもたちの学びをサポートする体制を強化しました。こうした活動により、児童の読解力、進級率に向上が見られています。



支援前
支援開始当時の青空教室



支援後
支援で建設された新しい教室で授業を受ける子どもたち



Water



水衛生

水設備の建設と
管理体制の確立を通じて、
安全な水を得られるように

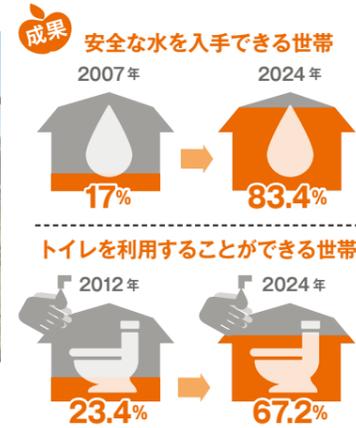
地域には安全な水を得られる水源がなかったため、多くの女性や子どもたちが長い時間をかけて遠くまで水くみに行ったり、川や池から糞尿に汚染された水をくんで使ったりしていました。またトイレや手洗い場の不足、手洗い習慣が十分ではなかったことから、感染症や下痢になる子どもも多くいました。ワールド・ビジョンは多くの人が家の近くできれいな水を得られるよう、手掘り井戸や浅井戸の建設や修復、水道管の延伸を進めると同時に、水管理委員会を設置して、給水施設を適切に維持管理する体制を整えました。また学校でのトイレの建設、屋外排泄根絶に向けた継続的な啓発活動などの取り組みを行った結果、人々の衛生に対する意識が向上し、行動変容につながっています。



支援前
不衛生な湧き水から水をくむ子どもたち



支援後
支援によって設置された、手押しポンプ付きの井戸



Livelihood



生計向上・ 栄養改善

収入増加と
貯蓄の習慣化で
家計が安定

地域住民の85%が農業で生計を立てていますが、収穫量が少ないため食料不足と貧困が深刻で、多くの子どもが栄養不良に陥っていました。ワールド・ビジョンは農家の収穫を増やすため、6つの育苗場を設置し、育てた苗を農家に提供したほか、土壌を良好な状態に保つ方法や、多様な野菜・果物の栽培に関する研修を実施しました。また特に貧しい世帯を中心とした貯蓄グループ（毎月少額のお金を持ち寄って共同で管理し、グループの承認を得て借入れをすることができる仕組み）を設立したことで、貯蓄の習慣が付き、急な出費への対応が可能になりました。こうした活動を通して、多くの世帯が十分な食料を得られるようになりました。



支援後
農業技術研修の様子



支援後
家畜の飼育方法を学んだ親子



Child Protection



子どもの保護

地域全体で取り組む
意識変革

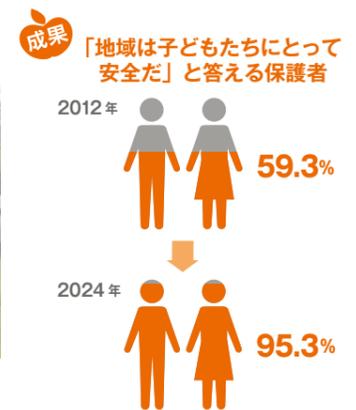
地域では、子どもへの暴力、女性器切除、児童婚、出生届の未提出など、子どもの人権・権利を侵害する行動や慣習が多くありました。こうした状況を改善するため、ワールド・ビジョンは地方行政、教師、宗教リーダーや地域ボランティアで構成する「子どもの健やかな成長委員会」を設置し、子どもの権利を守る活動をする人材の育成を行いました。また子どもたち自身が参加する「子どもの権利クラブ」や「子ども議会」を設立し、地域の課題解決に子どもの意見が反映される場を作りました。このような活動を通じて今では地域全体の意識が変わり、児童婚の件数が減少したほか、障害を持つ子どもや貧しい家庭の支援を地域住民が自ら行うようになっています。



支援後
出生届の登録が完了した子どもたち



支援後
児童虐待反対を訴えるイベント



マネージャーよりごあいさつ



地域開発プログラム
マネージャー
タフアッチ・
アンダルギー

以前この地域では、多くの子どもが栄養不良の状態、安全でない飲み水を原因とした病気によくかかっていました。また児童労働や児童婚といった、子どもの権利を侵害する課題もありました。しかし皆さまの温かいご支援を通じて、貧困、栄養、水衛生、教育など、地域が抱えていた課題の一つひとつに焦点を当て、取り組んだ結果、子どもたちを取り巻く状況を大きく変えることができました。短期的な活動では成しえない成果を実現することができたのは、19年もの長きに渡って支えてくださった日本のチャイルド・スポンサーの皆さまのおかげです。デラ地域を代表して、心から感謝いたします。ありがとうございました。

地域代表者からのごあいさつ



小学校校長
アサケ・メンキール氏

教育は、子どもたちが未来を築くためにとっても大切なものです。でもワールド・ビジョンの支援が始まる前は、保護者の教育への理解不足や貧困といった理由から、小学校に通っていない子どもが大勢いました。一方学校側も、設備の老朽化や教育の質の低さなどの課題を抱えていて、授業に参加していても満足に読み書きできない子が少なくありませんでした。しかし、チャイルド・スポンサーシップの活動によって、現在子どもたちの識字能力は向上しており、読み書きのできる小学生が増えました。長年にわたり、デラ地域を支えてくださった日本のチャイルド・スポンサーの皆さまに感謝いたします。皆さまに神様の祝福がありますように。

皆さまとともに歩んだ19年間の支援と成果

準備期

2005年度
▼
2007年度

- ◎ 支援対象地域の状況やニーズの調査
- ◎ 自治体や住民組織との関係構築および研修の実施
- ◎ 女性、障害を持つ人、子どものニーズの調査
- ◎ 調査結果に基づくプロジェクト実施計画の立案



地域住民が活動計画について話し合う様子

第1期

2008年度
▼
2016年度

- ◎ 栄養改善と収入向上のための家庭菜園の研修
- ◎ 小学校の校舎の増築
- ◎ 小学校に机・椅子などの設備の提供
- ◎ 小学校1年生～4年生の読み書きの能力向上を目的とした、読書キャンプの実施
- ◎ 5基の浅井戸を建設
- ◎ 給水設備の適切な維持・管理を行う水管理委員会の発足
- ◎ 野外排泄の撤廃と、正しい手洗い方法に関する研修



小学校に増築した校舎

第2期

2017年度
▼
2020年度

- ◎ 保護者を対象とした、栄養価の高い食事の作り方を学ぶ研修
- ◎ 灌がいの整備と農畜産業に関する技術の研修
- ◎ 貧困世帯に食料品の提供と老朽化した家屋の改修支援
- ◎ 家庭菜園の研修および、野菜・果物の種子の提供
- ◎ 繰り返し利用可能な生理用ナプキンの生産、配布
- ◎ 困窮家庭の子どもたちへ学用品の提供
- ◎ 新型コロナウイルス感染症流行中の対応（食料支援、感染予防など）



家庭菜園の研修を受けた家族

第3期

2021年度
▼
2024年度

- ◎ 栄養不良の子どもを特定し、対象者に栄養プログラムを実施
- ◎ 養鶏の研修を実施し、修了者にニワトリを提供
- ◎ 就学前教育センターを設立し、教員の能力強化のための研修を実施
- ◎ 学校や保健センターに給水設備を整備
- ◎ 支援終了後の各活動の移行計画について、関係者との話し合い



地域に設置された水道

支援を受けたチャイルドのストーリー

「私たち家族に、たくさんの変化をもたらしてくれました」

タラクセウさん
(25歳)

タラクセウさんは、母親と3人のきょうだいと暮らしています。「8歳のときに父を亡くしてからは、母が清掃の仕事をして育ててくれました。でも生活はとても苦しくて、母の収入だけでは満足に食べ物や服を買うことさえままならず、学用品をそろえることもできませんでした」

その後チャイルド・スポンサーシップの支援を受け始めたタラクセウさんは、ワールド・ビジョンから学校の教材や衣服、医療費などの支援を得ながら、小学校・中学校へと進学することができました。

さらに数年後、国の試験を受けてエチオピア南部にある大学に入学したタラクセウさん。園芸学（園芸のための技術向上や、植物を利用した研究や開発を目的とする農学の分野）を専攻し、理学士号を取得しました。

現在複数の仕事に就き、家族の生活を支えているタラクセウさんはこう話します。「もしワールド・ビジョンの支援を受けていなかったら、きっと学校に通うことをあきらめていたと思います。好きだった勉強を続けることも、今のようにきちんと収入を得て家族を養うこともできていなかったはずです。私たち家族に、チャイルド・スポンサーの皆さまがたくさんの変化をもたらしてくれました。とても感謝しています」

